

2020年11月25日 デイリー版6面

内航/フェリー

北海道泊村、高齢者の避難に一役。津波救命艇を設置

北海道泊村は、国土交通省ガイドラインに適合した津波救命艇を渋井地区集会所に設置し、13日に地域住民向けの説明会を開いた。北海道運輸局が16日発表した。全国では33番目、関東以北では2018年の北海道島牧村立島牧保育所に次ぐ2番目の導入となる。

渋井地区は地域住民の多くが60歳以上と高齢化が進行。急峻（きゅうしゅん）な地形に周りを囲まれ、高台への速やかな避難も難しい。階段による避難路整備や迂回（うかい）しての避難など津波発生時の避難方法については、地域住民と村役場の間で5年以上試行錯誤を繰り返しながら検討を重ねてきた。

80歳を超える高齢者でも何とか避難場所までたどり着くことができるよう上下移動の少ない方法を模索していく中、島牧保育所の事例が参考となり、地域住民との合意に基づき津波救命艇による避難が決まった。

設置された艇は、信貴造船所製造の「LIFE SEEDER」（25人乗り）型で、1週間分の食料や水、毛布などを備えており、全ての地域住民が避難するために十分な仕様となっている。

渋井地域会の宮下俊一会長は「避難方法がようやく決まり、安堵（あんど）した。説明会に参加して改めて感じたが、地域の住民が1カ所に集まり一緒に避難できるという安心感が生まれたのではないか」と話した。

今後は、定期的に行われる訓練などの機会を活用し、地域住民が安全に安心して避難できるよう体制を整えていくこととしている。



泊村津波救命艇（外観）



救命艇の内部の様子